

様式第3号（第4条関係）

塩竈市議会一般会議報告書

令和4年6月26日

塩竈市議会議長 阿部 かほる 殿

塩竈市議会事務局長



開催日時	令和4年4月26日（火）午後1時30分～3時47分
開催場所	ホテルグランドパレス塩釜3階
会議の議題	①新型コロナウイルス感染症流行に伴う市内事業者への影響について ②事業者から見た各種補助・助成事業について ③要望書について
出席議員名	塩竈市議会 産業建設常任委員会 副委員長 浅野 敏江 委員 西村 勝男 委員 山本 進典 委員 香取 嗣雄 委員 伊勢 由典 塩竈市議会 議長 阿部 かほる
参加関係団体等名	塩釜商工会議所 会頭 桑原 茂 副会頭 菅原 周二 副会頭 水野 暢大 副会頭 宮崎 剛 専務理事 三浦 一泰 商業部会長 佐浦 俊一郎 水産市場関連部会長 阿部 秋雄 水産加工部会長 阿部 善久 専門サービス部会長 大場 喜蔵 理財部会長 三瓶 淳也 運輸・港湾部会長 鈴木 哲郎
参加団体等の人数	11人
傍聴人数	3人

発言者名	主な発言要旨等
	<p>1. 挨拶 開会に先立ち、議長より挨拶があった。</p> <p>2. 座長選出 委員長が欠席のため、副委員長を座長に選出した。</p> <p>3. 開会 座長より、開会が宣言された。</p> <p>4. 出席者紹介 桑原会頭より、塩釜商工会議所の出席者の紹介が行われた。 座長より、塩竈市議会産業建設常任委員会委員の紹介を行った。</p> <p>5. ご挨拶 桑原会頭より挨拶があった。概要は以下の通り。</p> <p>本日、産業建設常任委員会の皆様と一般会議の場で意見交換の機会をいただき感謝する。</p> <p>コロナ感染症の影響による消費の低迷など課題に加え、ウクライナ情勢の緊迫化によるロシア産の輸入原料の供給不足が大きな懸念材料となっている。さらに原油の価格の高騰、新電力の撤退、円安の影響により景気の先行に対する不透明感が増し、かつて経験したことの無い、深刻な状況にあると感じている。特に本市の基幹産業である水産加工業では、ロシアからの加工原料に依存する企業が多く存在し、原料確保の見通しが不透明であり、価格の高騰など大きな不安材料になっている。水産加工業の原料についてはロシアからの輸入禁止品目品種から今後も外すように働きかけて欲しいと強い要望がだされているところである。</p> <p>一方経営基盤の脆弱な中小企業においては事業の継続と雇用の維持に必死に取り組んでいるが、自助努力で吸収できる限界を超える状況に至っていると思われる。これまで国による各種の支援策が展開され、コロナ禍後に向けたDXの推進など新</p>

<p>商工会議所</p>	<p>たな生活様式への転換に伴い、事業者を取り巻く経営環境は大きな転換期を迎えている。このような状況の中、コロナ禍のための追加対応が不可欠であり、急変する世界情勢を踏まえた対策をとる事が求められている。</p> <p>私どもとしては、本日のこの会議が実りのある有意義なものとなるよう、そして広い知見をお持ちの議員の皆様のご指導、ご支援を賜わりたく各企業部会の課題解決のきっかけになればと大いに期待するものである。</p> <p>海岸通市街地再開発事業につきましては、議会のご尽力により事業が大きく進捗したと聞いており、感謝する。</p> <p>6. 意見交換 発言の概要は以下の通り。</p> <p><u>①ウクライナ問題・円安等の影響について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロシア侵攻による影響によりロシア産タラの入荷見通しが立たなくなったため、ある加工業者組合員が3月1日に廃業した。 ・仲卸は輸入食材を扱う割合が高い。輸入食材の減少により鮭鱒など価格が高騰。今後の原材料の入手見通しが立たず、不安である。 ・アメリカ産の原材料が今後納品困難となると回答があり、代替でロシア産を使用しても、大手スーパーが扱わない。また、大手企業がアメリカ産を使用するため、中小企業が入手できない。 ・インフレの影響で諸々値上げされるものの、スーパー量販店から商品値上げは拒否される。そのため人件費を上げられない。価格が先に上がる為、悪い形のインフレとなっている。 ・価格高騰が続く。重油・食油が40%アップ。原材料も20%アップ。円安の影響で価格帯が30%アップ。運賃も梱包材もアップしている。 ・円安の影響は今後、1ドル130円→商品価格2倍となる見込み。外国型インフレはパターンが違う。影響を懸念してい
--------------	---

<p>産業建設 常任委員</p>	<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス、ウクライナ問題、インフレ、円安、地震などの影響により価格安定が望めない。インフレに対しての対応を検討してほしい。 ・円安3月115円→4月128円。円安は水産物仕入れ業者にはマイナスに働く。 ・ロシア問題では今後水産物の輸入禁止などを懸念している。代替品が無いことが課題。 ・水産物取扱業者に対して、関税引き上げ等今後の見通しを調査し対応していきたい。 ・全体的に、事業の継続が出来ない事業主が増えることが懸念される。 ・ウクライナからの難民を受け入れて、水産関係の仕事に従事してもらうのもよいのではないか。塩竈市の活性化のために、地域が一つにならなければならないと思う。 ・タラの輸入については、一年間分は冷凍庫に確保しているものの、単価上昇を待ち、出庫を躊躇している状況である。I Q（輸入割当）枠については、地元の事業所が一丸となって声を上げることで優先的配分が出来るのではと思う。 ・原材料高騰、人材不足、外国人労働者、コストの価格転嫁、人件費及び輸送費の増など、入口の対策、出口の対策が必要であり、行政としても検討を行うなど、塩竈モデルを作り出すことが必要。共に連携して取り組んでいきたい。 <p>②新型コロナウイルス感染症の影響について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光客の動きがなく、ホテルや飲食業界への納品がない。 ・業種関係なく資金繰り苦勞している事業主が多い。資産の切
<p>商工会議所</p>	

<p>商工会議所</p>	<p>り崩し、助成、借入等で対応。また、コロナ関連融資を受けるが、順調に返済できない事業主も一部見られる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的には1年前より活性化しているが十分な回復はしていない。コロナが収束しても個人消費行動、企業活動スタイルは元には戻らないと見込む。 <p><u>③労働者・賃金問題等について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・国の最低賃金3%アップが4年連続となっているほか、働き方改革による有給休暇取得などで人件費が増加していることから、商品価格へ反映しないと対応できない。しかし量販店からは値上げを拒否されている状況である。 ・国の政策に基づき、人件費を3%アップしているが、その影響分を商品価格に転嫁できない。スーパーからは値上げ拒否圧力があり、減量、包装の工夫では限界である。人件費分アップの価格転嫁が出来るよう考えて欲しい。 ・外国人技能実習生は3年の実習が終了すると特定技能者として職を選べることから賃金の高い東京へ移ってしまう。新しい外国人技能実習生が入ってこないことから深刻な人手不足である。 ・労働基準監督署の検査について、コロナ禍など経営環境が非常に厳しい中、昨年繁忙期である10～12月において残業時間などの確認をされ、改善を求められた。年間の総労働時間では基準の範囲に収まっているが、繁忙期間は難しい。年間全体で基準を見てもらう等、中小企業の実情を踏まえた配慮を求めたい。
<p>商工会議所</p>	<p><u>④港湾関係について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・仙台港への入港数は少ないが、大型船が入っている。バースの取り合いになっている。 ・国、県に改善の要望を出しているが、塩竈市もその中に入って欲しい。

<p>産業建設 常任委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市への要望も出しているが回答はいつも同じである。 ・塩釜港は特定重要港湾とされているが全く機能していない。 ・行政への願いは、我々と共感し、同じ思いで共に動いてほしい。 ・塩釜港の底が浅い。本来入港できる船も出来ないでいる。岸壁も進水できない為、出港できない。他港へ行ってしまう。浚渫工事は港にとって大事だが、一企業では出来ない。港の設備がダメ。改善を望む。 ・港湾の関係についても重要な課題である。塩釜港の利活用が図られなければ、ニーズが他港に移ってしまい、市の産業の基盤を喪失してしまうこととなる。国県への要望として反映させながら、取り扱いを進めていくことが大事だと捉えている。
<p>商工会議所</p>	<p>⑤市内経済について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲卸市場については組合員数の減少により令和4年6月1日から4単協を一本化する。新組合役員は30～40代とする予定。 ・青色申告会会員 7万人から3.5万人に減少、県でも減少。確定申告では30%が所得税申告、70%は還付と所得税非課税者。 ・高齢化で跡継ぎがない。青色申告会も会員が減少、会の存続を懸念。 ・震災から10年が過ぎ、公共工事が減った為、今は受注競争が激しい。入札も地元業者が受注できる仕組みが必要ではと思う。(受注業者が三重県というケースもある)。

<p>産業建設 常任委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本町では閉店撤退がここ3年間続いている。コロナ以外にも震災からの復興が完全ではなく、後継者不足も重なり、賑わいがなくなってきている。限界を感じている。 ・商業者は一般生活者を対象としている。市の施策は観光事業に重点が置かれていると感じており、生活者への施策の充実も図ってほしい。 ・助成制度で個人事業主が対象とならないものが多い。事業主が払う福利厚生などへの助成はない。国の支援が必要。 ・海岸通再開発事業では、市として総事業費の約22.8%、9億4500万円を投じている。今後はテナント誘致が課題である。 ・今お聞きした実情に沿って、市として地域経済をどうしていくのかという話があった。国・県への支援の働きかけが必要と感じた。 ・本町商店街の店舗閉店が多く、地元経済への関わりとして、一歩踏み込んだ政策が必要である。新たな長期総合計画の中で、市でも施策は考えているようだ（門前町再生など）。今後意見を集約して取り組んでいくことが大事である。 ・仲卸市場の一つの取組として、道の駅といった取り組みや、国のDX推進に基づくキャッシュレスといった取り組みなどが考えられるのではないかと思う。 ・商業施策として、消費者にとっても、事業者にとっても効果的な、10割増商品券事業などの実施が引き続き必要だと考えている。 ・アンケートを拝見したところ、相談件数には、ある程度今後の将来を考えながらの相談項目となっているのかなとみている。議員ももっと街に出て皆様の意見を聞くよう努める必要がある。
----------------------	--

<p>商工会議所</p>	<p><u>⑥勝画楼や歴史的建造物の保存活用について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・勝画楼の保存活用について、議会で全会一致により賛成決議したにもかかわらず、3年程進展が無い。 ・市民一丸となって取り組めば資金面も含めて事業推進が図られると考えている。これからのまちづくりに勝画楼は欠かせない。継承していくことが我々大人の役割であると考えている。 ・塩竈ではNPO活動によりカメイ邸や旧糸びや旅館の保存、活用が、手弁当により行われてきた。市民、観光客からも高く評価されており、今後は行政もこのような歴史文化を活かしたまちづくりを強力にすすめるべきである。
<p>産業建設 常任委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・勝画楼の事業推進策として、民間資金の活用が図られないかと考える。 ・(多賀城については)多賀城の史跡を守る会、保存会とかそのような団体が伝統を作っている。塩竈の歴史的建造物を後世に残していこうというのは大変貴重なご意見。そういった関係から市民運動など研修会等を通して作り上げてくこともあっていいのではと思う。
<p>商工会議所</p>	<p><u>⑦水産関係について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・水産研究所(現 国立研究開発法人 水産研究・教育機構 東北水産研究所 塩釜庁舎)の活用が出来ていない。 ・港湾取扱量700万tだったものが震災時300万tに減少、そして現在200万t。水揚げ高は500億であったものが100億を切っている。水産加工業1,200億であったものが500億を切っている。仲卸市場300億から100億以下になろうかと厳しい状況。この現状が続くのは大変、市と一緒に対応したい。 ・塩竈の活性化を考えなければと思う。基幹産業である水産関係に対して、どういったことをしなければならぬのか、魚市場、仲卸市場の連携をもっと図らなければならぬと思う。また、水産研究所、大学等と連携し、他の地域で行って

産業建設 常任委員	<p>いるようなナマコ、アナゴ、アサリ、ワタリガニなど、養殖事業を進めることも必要と考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以前、政策関係について、HACPP取り上げさせてもらった。水揚げ20億円減少。目標100億達成できればと思っている。積極的に水揚げする市場と仲卸がリンクすることが望ましい、期待する。
商工会議所	<p>⑧北浜緑地公園・観光船について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防潮堤問題（北浜緑地公園）も解決していない。港の賑わいを目的としていたはずなのに、公園を作って終わりという感じがする。賑わいから経済を活性化させるものとなるよう希望する。 ・観光船について、塩釜～松島間は最盛期99万人から20万、10万人とどんどん減ってきていたと思う。一方、浦戸散策コースを観光船会社のほうで開発されて30万人くらいに増えていた。それが、大震災後は松島が数万、浦戸はほとんど動いていない状態。浦戸は大きな一つの資源。開発し観光船事業を再生させていかななくてはいけない。 <p>7. 閉 会 座長より、閉会が宣言された。</p>